大阪・船場、くすりの町の落語会

道修町（どしょうまち）たなみん寄席

久しぶりに道修町でお会いしましょう♪

第11回「落語のネタも信心から」

古典落語には、当時にぎわっていたお寺や神社がひんぱんに登場します。
それは実際どのようなものだったのでしょうか。
当時の人々にとっては当たり前だった「民間信仰」について探ってみましょう。

たっぷり楽しめる3本立て!

落語

笑福亭松枝
「三枚起請」

笑福亭生喬
「ぞろぞろ」

桂あおば
「お血脈（けちみゃく）」

講演

髙島幸次
（龍谷大学エクステンションセンター顧問・大阪天満宮文化研究所）
「大阪町人の宗教風土と落語」

7/2（土）
14:00～
入場料 1,000円
定員 150名（要申込・先着順）

落語&トークがいっぱい!
道修町たなみん寄席のYouTubeチャンネルに登録してね
過去に公開された落語やトーク、史料館の紹介などが観られます。

◎お手持ちのパソコンやタブレット、スマートフォンでご覧いただけます
www.tanamin-yose.net/
たなみん寄席 検索

田辺三菱製薬

大阪・船場、くすりの町の落語会

道修町たなみん寄席

「たなみん」って？

ふわふわで真っ白な毛に覆われた、大きな青い手を持つ妖精。その手でどんな相手でもぎゅっと受け止め、包み込む。
ハグされたものはその心地よさにひとたび眠りにつき、起きたときには病が治っている、こともあるとか。田辺三菱製薬のキャラクターとして活躍中！

庶民のあいだの信仰、落語でも大切な要素に。

庶民の文化・風俗が色濃く反映されている古典落語には、「この時代はそうだったんだろう」という事象がたくさん登場します。昔のことだから…とそのまま丸呑みにして聴いていてももちろん楽しいわけですが、「それが何か」を知っておくと、よりおもしろく落語を楽しめるはずです。

今回は当時の庶民の間では当たり前だった民間信仰のようなものが垣間見えるネタを通して、その中に出てくる寺社や、信仰の内容が、実際はどのようなものだったかを考えます。

◎資料（背景写真）について

大阪天満宮護符「天満宮牛玉宝印」江戸時代
（大阪天満宮蔵）

「牛玉宝印（牛王宝印とも表記）」は、寺社が発行する厄除けの護符です。災難を避けるため、身に付けたり、門口に貼るなどしていました。

本尊を示す梵字などが書かれるのが一般的で、今回の資料である大阪天満宮の牛玉宝印は、シンプルなデザインですが、寺社によってそれぞれ異なります。例えば、熊野三山（本宮大社・速玉大社・那智大社）が配布した「熊野牛王符」は、カラスを何十羽も組み合わせたユニークな「烏文字」が木版印刷されていました。

中世以降は落語「三枚起請」にも登場する「起請文」を書く料紙として用いられ、この紙を裏返して誓約の文章を書くため、「宝印を翻す」といえば誓約をすることを意味しています。

第11回「落語のネタも信心から」

笑福亭松枝「三枚起請」笑福亭生喬「ぞろぞろ」桂あおば「お血脈」　髙島幸次（講演）「大阪町人の宗教風土と落語」

日時 2022年**7月2日**（土）　14:00～16:00（受付13:15～）

会場 田辺三菱製薬株式会社 **本社3階**（大阪市中央区道修町3-2-10）

入場料 1,000円　**定員 150名**（要申込・先着順）※定員に達し次第締め切ります。

下記ホームページの申し込みフォームからお申し込みください。
1通につき4名まで申し込めますが、複数名でご参加希望の場合は、代表者の方の必要事項を明記してください。
同じ名前・同じ住所で複数回お申し込みいただいた場合、いずれか1つのお申し込みだけを有効とさせていただきます。

https://www.tanamin-yose.net/　たなみん寄席　検索

道修町の歴史がよくわかる
田辺三菱製薬史料館を
見学していただけます。

◎ご参加までの流れ

①お申し込み
5月25日（水）10:00より
インターネットのみで
受け付けています。

→

②自動返信メール送信
自動返信メールに
明記された予約IDが、
お席への入場順となります。

→

③当日お支払い
当日、会場で入場料を
お支払いください。
※お支払いは現金のみとなります。

お申し込み先着順に予約IDを発行し、当日はその番号順にご入場いただきます。
予約IDは自動返信メールに記載していますので、受付でお知らせください。

※受付開始時間より前にお越しいただいても、早く入場できるわけではありません。
※災害や感染拡大などで開催を中止または延期させていただく場合は、
当会ホームページでお知らせします。

お問い合わせ ☎06-6484-9677
（道修町たなみん寄席事務局・株式会社140B内）
主催／田辺三菱製薬株式会社　企画・運営／株式会社140B